

---

# 令和6年度 事業報告書

---

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

学校法人 和田実学園

東京教育専門学校

目白幼稚園

## 目次

1.1	基本情報	2
1.2	建学精神	2
1.3	沿革	3
1.4	設置する学校	4
1.4.1	園児・学生（令和7年5月1日現在）（単位：名）	4
1.4.2	収容定員充足率（毎年度5月1日現在）	4
1.5	理事・監事（令和7年3月31日現在）	5
1.6	評議員（令和7年3月31日現在）	5
1.7	教職員（令和7年3月31日現在）（単位：人）	6
1.8	施設等（令和7年3月31日現在）	6
1.	事業の概要	7
2.1	東京教育専門学校	7
2.1.1	重点目標	7
2.1.2	教育活動	9
2.1.3	学習成果	10
2.1.4	学生支援	10
2.1.5	教育環境	11
2.1.6	地域社会・卒業生への貢献	11
2.2	目白幼稚園	13
2.2.1	保育の質向上を目指して	13
2.2.2	園児募集について	13
2.2.3	保育者の資質向上について	13
2.2.4	人事について広報活動	14
2.3	法人	15
2.3.1	理事会開催状況	15
2.3.2	評議員会開催状況	16
2.3.3	理事会における重要審議事項と決議内容	17
3.	財務の概要	19
3.1	貸借対照表の概要	19
3.2	資金収支計算書の概要	19
3.3	事業活動収支計算書の概要（令和6年度）	19
3.4	5年間推移（令和2年度～令和6年度）	20

## 法人の概要

### 1.1 基本情報

名 称	学校法人 和田実学園
所在地	171-0031 東京都豊島区目白 2 丁目 38 番 4 号
電話	03-3983-3385
FAX	03-3983-3386
ホームページ	<a href="http://www.wadaminoru.ac.jp/">http://www.wadaminoru.ac.jp/</a>

### 1.2 建学精神

本学園は、幼児教育を教育学の体系に位置づけて科学的に論じ、日本における独自の保育学を主張した和田實によって創設された。和田實は理想とする保育を実践するために、大正 4 年（1915 年）に目白幼稚園を設立後、理想とする保育を実践するためには良い保育者の必要性を痛感し、昭和 5 年（1930 年）に現在の東京教育専門学校を創設した。そして、和田實はその一生を幼児教育並びにその指導者の養成に捧げ、その道に進む人に多くの道標を残した。

創設者和田實及びその遺志を引き継いだ芦田昇によって示された建学の精神「知性と愛と自由」。幼稚園においては、その精神に満ちた善良な市民としての人格の基礎を培う幼児教育思想を実現実践し、東京教育専門学校においては、教育理念として「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」を明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人とともに感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標として、創設以来、有為な人材を数多く輩出してきた。

建学の精神については、令和元年度の和田實研究委員会が中心となり、建学の精神の表現についての検討を行い、文案を作成した。今後も和田實研究委員会、評議員会等で適正な表現となっているかの確認を行っていく。

### 1.3 沿革

大正 4 (1915)年	目白幼稚園開園(東京府北豊島郡高田町 = 現在地) 初代園長に和田實が就任
大正 5 (1916)年	東京府知事より目白幼稚園の認可を受ける。
昭和 5 (1930)年	目白幼稚園保姆養成所開校(東京市淀橋区下落合) 初代所長に和田實が就任 目白第二幼稚園開園、初代園長に和田實が就任
昭和 7 (1932)年	和田實著『実験保育学』出版。
昭和 9 (1934)年	「目白幼稚園保姆養成所」を「東京目白保母学校」へ名称変更。
昭和 18 (1943)年	和田實著『保育学』出版。
昭和 19 (1944)年	目白幼稚園が建物強制疎開の為閉園。 第二目白幼稚園は戦時託児所となる。
昭和 20 (1945)年	戦災で校舎焼失のため休校。
昭和 25 (1950)年	「東京目白保母学校」を「東京教育専修学校」へ名称変更し 再開。目白幼稚園内にて1部(昼)2部(夜)制となる。
昭和 26 (1951)年	学校法人目白保育学園設立。初代理事長に和田實が就任。 文部大臣指定の幼稚園教員養成機関となる。
昭和 33 (1958)年	教育職員免許法改正により2年制となる。
昭和 39 (1964)年	目白幼稚園及び東京教育専修学校の校舎改築。
昭和 40 (1965)年	新校舎完成。幼稚園50周年、専修学校35周年を迎える。
昭和 43 (1968)年	3階建新校舎落成(東京都新宿区下落合)。
昭和 44 (1969)年	厚生大臣の指定校となる。
昭和 51 (1976)年	「東京教育専修学校」を「東京教育専門学校」へ名称変更。 下落合校舎5階まで増築。
平成 2 (1990)年	「学校法人和田実学園」へ名称変更。 専門学校創立60周年を迎える。
平成 7 (1995)年	専門士の称号付与校となる(幼稚園教諭・保姆養成科) 幼稚園創立80周年を迎える。
平成 11 (1999)年	幼稚園教諭・保育士養成科へ科名変更。 2号館校舎開設(東京都新宿区下落合)。
平成 12 (2000)年	専門学校創立70周年を迎える。 新教育課程の認可を受け、1・2号館での授業開始。
平成 17 (2005)年	幼稚園創立90周年を迎える。
平成 19 (2007)年	和田實著『幼児教育法』現代語版発行。

平成 21 (2009)年 新園舎、新校舎落成(東京都豊島区目白)。  
2号館校舎閉鎖。

平成 23 (2011)年 和田實生誕 135 周年記念・幼児教育研究会を行う。

平成 27 (2015)年 幼稚園創立 100 周年式典を行う。

平成 28 (2016)年 1号館(下落合校舎)閉鎖。

令和 2 (2020)年 専門学校創立 90 周年を迎える。

#### 1.4 設置する学校

設置する学校	学校設置認可
目白幼稚園 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	大正 4 (1915)年 11 月 1 日
東京教育専門学校 (東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号)	昭和 5 (1930)年 8 月 19 日 (旧名称：目白幼稚園保姆養成所)

##### 1.4.1 園児・学生 (令和 7 年 5 月 1 日現在) (単位：名)

学校	収容定員数	在籍園児・学生数
目白幼稚園	100	38
東京教育専門学校	300	115

##### 1.4.2 収容定員充足率 (毎年度 5 月 1 日現在)

区分	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
目白幼稚園	31%	38%	40%	43%	38%
東京教育 専門学校	80% (内訓練生 23%)	70% (内訓練生 27%)	65% (内訓練生 20%)	62% (内訓練生 20%)	38% (内訓練生 10%)

## 1.5 理事・監事

(令和7年3月31日現在)

定員 理事6名、監事2名

職名	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	備考
理事長	北原隆史	(理事) 平成29年4月1日 (理事長) 令和3年3月8日	常勤	東京教育専門学校校長
理事	近喰晴子	令和3年3月27日	常勤	目白幼稚園園長 東京教育専門学校副校長
理事	藤村公三郎	令和5年6月3日	常勤	和田実学園総務部長 東京教育専門学校講師
理事	西畠義昭	平成23年4月1日	非常勤	弁護士
理事	中野宏	平成29年6月1日	非常勤	元会社役員
理事	和田志郎	令和3年5月1日	非常勤	元研究開発専門員
監事	峯岩男	令和4年4月1日	非常勤	幼稚園園長
監事	塚田剛士	令和7年3月31日	非常勤	保育園副園長

## 1.6 評議員

(令和7年3月31日現在)

定員 16名

氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	備考
北原隆史	平成29年4月1日	常勤	学校法人和田実学園理事長 東京教育専門学校校長
会田朋世	平成29年4月1日	常勤	東京教育専門学校副校長
近喰晴子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園園長 東京教育専門学校副校長
藤村公三郎	令和3年4月1日	常勤	学校法人和田実学園総務部長 東京教育専門学校講師
立岡憲久	令和5年4月1日	常勤	東京教育専門学校事務長
大沼郁子	令和2年4月1日	常勤	目白幼稚園副園長
大澤力	令和5年4月1日	非常勤	東京教育専門学校講師 東京家政大学名誉教授

島根 恵	平成 18 年 4 月 1 日	非常勤	音楽家
西田 祐恒	平成 26 年 4 月 1 日	非常勤	保育園園長
和田 志郎	令和 3 年 3 月 27 日	非常勤	元研究開発専門員
町田 章一	平成 14 年 4 月 1 日	非常勤	大妻女子大学名誉教授
宮崎 豊彦	令和 5 年 4 月 1 日	非常勤	東京都民間保育協会会長 保育園園長
石田 啓子	令和 2 年 4 月 1 日	非常勤	会社役員
藤田 興彦	令和 2 年 11 月 1 日	非常勤	児童育成協会参事
小原 敏郎	令和 5 年 4 月 1 日	非常勤	共立女子大学教授

1.7 教職員 (令和 7 年 3 月 31 日現在) (単位：人)

区 分	教 員		職 員		計
	本務教員	兼務教員	本務職員	兼務職員	
目白幼稚園	5	1	0	3	9
東京教育専門学校	9	24	7	1	41

1.8 施設等 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

所在地：東京都豊島区目白二丁目 38 番 4 号

土 地：898 m<sup>2</sup>

建 物

区 分	種 別		平米数(m <sup>2</sup> )
目白幼稚園	園 舎	1 階建	402.06
	園 庭	第 1 園庭、第 2 園庭	633.09
東京教育専門学校	校 舎	7 階建(2～7 階)	1692.48
幼稚園・学校	地下ホール	地下 1、2 階	537.63

## 事業の概要

### 2.1 東京教育専門学校

#### 2.1.1 重点目標

##### (1) 高等教育無償化制度対象機関としての継続

- ① 財務状況の公表（法人）
- ② 自己点検評価の充実 学校関係者評価の実施と公表
  - ・ 各委員会、部署による自己点検・評価の基本方針、対策の確立
  - ・ 学生の主体的な学修を促すための工夫への点検評価
  - ・ 学生自身の達成度・満足度に関する認識の把握
  - ・ 実効的な PDCA サイクルの確立による内部質保証システムの構築
  - ・ 学校関係者評価委員の選出と学校関係者評価の実施(感染症対策として文書での実施)
  - ・ 学校関係者評価の公表
- ③ 評価のあり方の検討
  - ・ 個々人の学修成果の見える化の検討
  - ・ 成績評価の客観的指標化 GPA（平均評価点数）の導入

以上、申請のための条件を整え、令和6年度においても高校教育無償化対象校として承認された。

##### (2) 学生募集のあり方の強化

- ① AO 募集の強化：個別での説明会の強化
- ② 保育講座、体験授業、個別見学会、入試相談会の充実
- ③ 高校説明会の回数の確保
- ④ ライバル校の HP から本校 HP への誘導
- ⑤ 学生広報部チーム TKS イベントの充実

といった昨年度からの方針を踏襲しながら、同窓会との連携をさらに強化し、卒業生の積極的な協力を要請した。その結果として、一般学生の募集状況は昨年度 36 名から 45 名と増加することができた。

訓練生募集においては、令和 3 年度から全教職員での東京都の全ハローワークへの訪問を今年度も実施した。また、1 月の訓練生説明会の夕刻からの開催も含め 6 回実施し、より多くの方に 2 つの資格が取得できることのメリットと、そのことによる負担についての正確な情報提供、本校養成教育の歴史・特徴を伝えた。訓練生募集枠 30 名は確保できたが、結果として 15 名が訓練生として合格し、辞退者 2 名を除いた 13 名（昨年度 20 名）が入学するという厳しい結果となった。

訓練生の募集結果について原因としては以下のものが挙げられた。

- ① 社会的な保育者へのネガティブな印象が強く広がったことによる保育者希望者の減少

- ② 保育士のみ取得できる通学時間が短く負担感が少ない専門学校への流れを変えられなかった。

令和7年度に向けて一般学生募集においては、学生広報部チームTKSの活動をさらに充実させるとともに、学校案内・HPのデザイン改訂を実施し、高校生からより注目されやすい募集広報活動を展開し、保育者育成としての具体的な募集広報活動を展開するために同窓会との連携を強化し、現役保育者である卒業生の高校説明会などへの積極的な協力を要請していく。また、経営戦略サポートとの定期的なコンサルティングの時間を設け、多角的に学生募集の在り方を見直していく。

訓練生募集においては、2つの資格取得のメリットをさらに強調するとともに、訓練希望者へ訓練の負担感を少しでも軽減できるよう、夏季休暇の時期の見直し、土曜日補講の見直し、授業時間割への配慮など可能なことを検討実施していく。

学生募集において、学生数の確保については昨年同様かなり厳しい状況となっているが、本校を受験し入学した学生の質については、本校のアドミッション・ポリシーにふさわしい保育者としての質の高い学生を本校に迎えられていることは大変光栄なことである。

令和6年度の募集結果は、志願者数62名（うち男子13名）、受験者数61名（うち男子13名）、合格者数60名（うち男子13名）、入学者数58名（うち男子13名）（昨年度56名）であった。入学者58名の内訳は、AO入試において25名（昨年度24名、一昨年度37名）、推薦・指定校推薦入試において19名（昨年度9名、一昨年度14名）、自己推薦入試・卒業生推薦入試・一般入試において2名（昨年度4名、一昨年度2名）計46名（昨年度37名、一昨年度53名）の合格者、辞退者は1名（AO入試合格者）を除く45名が一般学生の入学、訓練生は15名、辞退者2名で13名となり、昨年同様厳しい状況である。

このことを真摯に受け止めるとともに、質の高い学生とともに質の高い保育者養成校としての学校生活の充実度・満足度をさらに向上させていき、東京教育専門学校ブランド強化を図り、質と量が伴う学生募集活動のさらなる工夫と新たな取り組みを実施していく。

したがって、令和7年度新1年生は58名、新2年生は53名、Eクラス4名の計115名（昨年度134名、一昨年度186名）でスタートしている。

[令和7年度 在学者数]

第1学年次：B・Dクラス 58名（うち男子13名）

第2学年次：A・C・Eクラス 57名（うち男子9名）

(3) 就職支援、キャリア教育支援、卒業後支援の強化

キャリアコンサルタントによるキャリア支援を導入するとともに、新たな求人検索システムを導入し、より円滑な就職支援を実施した。また、卒業生就職懇談会を2

回を増やし、7月13日及び12月7日に実施した。日常的なキャリア支援の充実、外部講師によるマナー講座、学生による保育園フェアの開催などを実施し、就職支援を充実させることができた。

令和7年度は、公務員試験対策講座を開講するなどキャリア支援をさらに充実させ、保育園、幼稚園、施設はもちろん、4年制大学への進学支援なども視野に入れた支援活動に広げていく。卒業生就職懇談会は昨年度同様、2回実施し1年生も参加するようにして、早期からのキャリア支援を実施していく。

### 2.1.2 教育活動

本学園の教育理念を「感謝・尊敬・寛容を中心とした性格陶冶を基礎条件とした誘導的方法による幼児教育」として明確に位置づけ、「その教育理念を理解し、職業人・社会人として必要な資質の完成を目指すため、出会う人とともに感動を共有しながら地域社会に貢献できる人材の育成」を教育目標としている。

入学式及び卒業式（保護者参加数を限定、非常勤講師も参加して実施）を予定通りの日程で実施した。謝恩会は「卒業を祝う会」に名称変更し実施した。

体育祭は、5月2日（木）に東京武道館において実施することができた。2年生の実行委員が中心となり、以前と同じような素晴らしい雰囲気での体育祭となった。

保育祭は、10月に昨年度同様外部からの参加者、卒業生とそのご子息を招いて実施した。10月18日（金）午前準備・午後保育祭、10月19日（土）保育祭を実施した。学生家族、卒業生及びそのご子息、目白幼稚園園児及びその家族、一般高校生など計304名の来校者数であった（昨年度284名）。18日（金）には音楽表現の授業の一環として合唱発表会を実施した。

夏季キャンプ実習は、8月9日（金）から12日（月）の3泊4日で、福島県裏磐梯小野川湖において実施した。学生14名、卒業生10名、家族8名、卒業生ボランティア5名、スタッフ6名の計43名が参加した。実施内容はカヌー、沢登りをはじめ学生が企画したBBQ、流しそうめん、スイカ割り、モルック、ナイトハイク、キャンプファイヤー、花火大会などを実施した。

冬季キャンプ実習（スキー・スノーボード）は3月7日（金）から9日（日）の2泊3日で、新潟県妙高高原杉ノ原スキー場において実施した。学生18名、卒業生5名、家族1名、スタッフ5名、ゲスト2名の計31名が参加した。

学事日程、補講なども予定通り行うことができた。期末試験も昨年同様対面での一斉試験で実施した。実習についても予定通り実施することができた。

#### [令和6年度卒業生数等]

卒業生数 67名（うち男子8名）、9月卒業生1名（女子）

留年者数 4名（2年生留年、うち男子1名）

退学者数 9名（うち男子2名）

### 2.1.3 学習成果

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの3ポリシーを基に、認可された保育者養成課程に基づき教育活動に取り組んでいる。各授業においては、4年ぶりにすべて対面授業で実施し、今まで蓄積してきた在り方を活かしながら、到達目標及びテーマを明文化し、主体的に取り組むことができた。

保育者としての資質として「職業人としての意識」「共存しながら協力しながら育っていく姿勢」「コミュニケーション能力」「健康管理・生活管理」などを教育課程や教育課程外の活動を通して育むことの学習成果は、令和5年度よりさらに充実度は向上したと思われる。

成績に関しては、令和2年度からGPA（平均成績）を視野に入れた成績評価を実施し、学習成果の可視化を図った。またGPAの成績が下位1/4の学生には個別指導・支援を実施している。

しかしながら、養成教育の在り方のさらなる見直しと共通認識の確立は重要な課題であり、学生募集状況からも養成教育の充実と学生生活の満足度の向上は最重要課題として引き続き取り組んでいきたい。学生数減少は極めて残念ではあるが、質の高い学生とともに、少人数ならではの一人ひとりが活躍できるきめ細かい丁寧な養成教育に取り組んでいく。

このような状況において、進路決定者の100%が幼稚園教諭2種免許や保育士資格を活かした就職であった。

令和7年度は、前年度の反省を活かしながら、教育課程外の活動に関しても今までの工夫や柔軟な発想をもって、安全を確保しつつすべての活動を実施する方向で計画実行していく。

### 2.1.4 学生支援

#### (1) 進路支援の充実

保育者養成校として、資格取得とともに保育現場への就職支援は、職業人を養成する専門学校としての責務であり、より一人ひとりにマッチしたきめ細やかな進路に対して支援が求められる。保育現場の現状としては、待機児童という状況はほとんど無くなり、むしろ定員に満たない園も増えている。しかしながら、保育者の人手不足解消とまでは至っておらず、地域差はありながらも求人件数は多い（令和6年度求人件数1,766件、令和5年度求人件数1,632件）。この状況において、ミスマッチを少なくし希望する現場へ繋げられる支援は難しい状況が続いている。

令和5年度において新たな求人検索システムを導入し、継続的に支援体制を強化しており、令和6年度ではキャリア支援の在り方を拡充・充実させ、さらに円滑な進路支援体制で支援することができた。

令和6年度は、就職希望学生数63名中59名が進路決定をした。3月末時

点での就職率は 93.6%（昨年度 96.6%、一昨年度 97.4%）であった。その内訳は下記の通りである。

幼稚園	10名	17.0%	（昨年度 17.9%、一昨年度 18.2%）
保育園	24名	40.7%	（昨年度 40.5%、一昨年度 48.1%）
こども園	5名	8.5%	（昨年度 8.3%、一昨年度 5.2%）
施設	7名	11.9%	（昨年度 9.5%、一昨年度 10.4%）
企業保育	7名	11.9%	（昨年度 8.3%、一昨年度 3.9%）
公立施設	6名	10.2%	（昨年度 6.0%、一昨年度 7.8%）
一般企業	0名	0.0%	（昨年度 8.3%、一昨年度 3.9%）

(2) 各種奨学金の対応による経済支援

生命保険協会による奨学金の給付を実施した。

(3) 健康状態の把握

健子診断を 4 月 13 日（土）に実施した。検査項目は胸部デジタル撮影、身体測定、視力、尿検査、血圧、診察である。また、オリエンテーションにおいて「健康に関する調査」を実施し学習環境や生活面で気になる学生に対して担当教員が個別に面談をして支援した。

### 2.1.5 教育環境

令和 6 年度に教育施設整備として、情報機器室 PC 一式の導入を実施した。

### 2.1.6 地域社会・卒業生への貢献

(1) 研修施設としての充実

① 保育士等キャリアアップ研修プログラムの実施

期 間：8 月 19 日（月）～8 月 23 日（金）

内 容：「障害児保育」分野

「保健衛生・安全対策」分野

「幼児教育」分野

「保護者支援・子育て支援」分野

② 各幼児教育・保育関連団体、その他文化活動団体への施設提供

子どもの文化研究所

幼少年教育研究所

青山シンフォニーオーケストラ

国際親善音楽交流協会

日本医学協会

株式会社コーラス・カンパニー

東京都民間保育園協会

近隣保育園運動会、など

保育士等キャリアアップ研修は開催日程の在り方を見直すとともに、「障害児保育」及び「保健衛生・安全対策」の2分野に加えて、「幼児教育」及び「保護者支援・子育て支援」の2分野、計4分野を開催した。

その他の施設提供事業は、子どもの文化研究所への施設提供を始め、オーケストラの練習など施設の利用が令和6年度にはさらに増えている。

## (2) 図書室の開放

目白幼稚園園児が利用できるように開放した。また、近隣の保育園園児（目白ひかり保育園）が定期的に図書室を利用してもらえるように開放した。

## (3) 卒業生への貢献

新卒者向けホームカミングディを4月28日（日）に実施した。「和田実研究会」は実施できなかったが、卒業生を対象とした、発酵をテーマとした自主上映会及び手作り味噌づくりを2月22日（土）、23日（日）に実施した。

## 2.2 目白幼稚園

### 2.2.1 保育の質向上を目指して

- ・創設者「和田実」の教育理念を踏襲しつつ、園児の生活体験を豊かにすべき保育内容を見直した。新たな体験として、じゃがいも掘り、消防署防災館での煙、地震体験をしたほか、目白消防署から来園いただき、消火器を使った消火訓練も実施した。一方、目白警察署にも来園いただき交通安全指導を受けた。両署には子どもたちのメッセージカードを持参して訪問し、交流を図った。子どもたちの「やりたい」を大事に育て、さつまいもや枝豆などを栽培し食する経験をすることで経験値を増やしていった。
- ・学校との連携では、図書の貸し出しを中心に、放課後に園児と学生が交流したり、展示している学生の作品に触れたりするなどの交流を積極的に行った。
- ・電子黒板や書画カメラを活用し、子どもの好奇心を育む活動を積極的に行った。見つけたものを調べたり、拡大・縮小したり、保育を子どもとともに振り返るなど保育の幅が広がった。
- ・地域資源を活用した取り組みが増加した。そのため「街保育」を提案したが、実践には至らなかった。

### 2.2.2 園児募集について

- ・施設開放日を設け、利用枠を増やした。また、未就園児の保育「おひさまくらぶ」とも連動させた取り組みを行った。定期的に利用するものは多くはなかったものの、入園園児は昨年度より増加した。施設開放については、より徹底した周知方法を検討する必要がある。
- ・子育て支援の一環として、親子で参加するクリスマスツリー作りを行った。学生ボランティアによるクリスマスソングの演奏もあり、和やかなひとときを過ごせた。

### 2.2.3 保育者の資質向上について

- ・昨年度と同様研修を積極的に勧め、資質向上を図った。Zoom研修をはじめ、昨年度より多くの研修に参加し保育実践につなげることができた。また、学会への団体加入をし、実践発表できる機会を設けたが、テーマを決めた研究には至らなかった。
- ・保育の実践記録を残すよう提案し、エピソード記録ノートを作った。このことで、子どもの日々の様子が見えてきたが、それを十分に活用することができなかった。記録を残すことの意義を十分に理解し取り組む必要がある。

#### 2.2.4 人事について広報活動

- ・ 1名の育児休暇取得者が出たことを機に、常勤保育者として1名を正規雇用として採用した。初めての男性保育者採用であったが、女性とは異なる感性から保育実践を提案し取り組んだことで、目白幼稚園の保育に新しい風が生まれた。

### 3. 財務の概要

#### 3.1 貸借対照表の概要

(単位：千円)

	令和 6 年度	令和 5 年度	増減
固定資産	927,825	992,657	△ 64,832
うち有形固定資産	912,152	961,255	△ 49,103
流動資産	127,965	72,977	54,988
資産の部合計	1,055,789	1,065,634	△ 9,844
固定負債	84,144	5,651	78,493
流動負債	57,205	62,877	△ 5,672
基本金	1,847,262	1,839,653	7,609
繰越収支差額	△ 932,821	△ 842,547	△ 90,274
負債及び純資産の部合計	1,055,789	1,065,634	△ 9,844

#### 3.2 資金収支計算書の概要

(単位：千円)

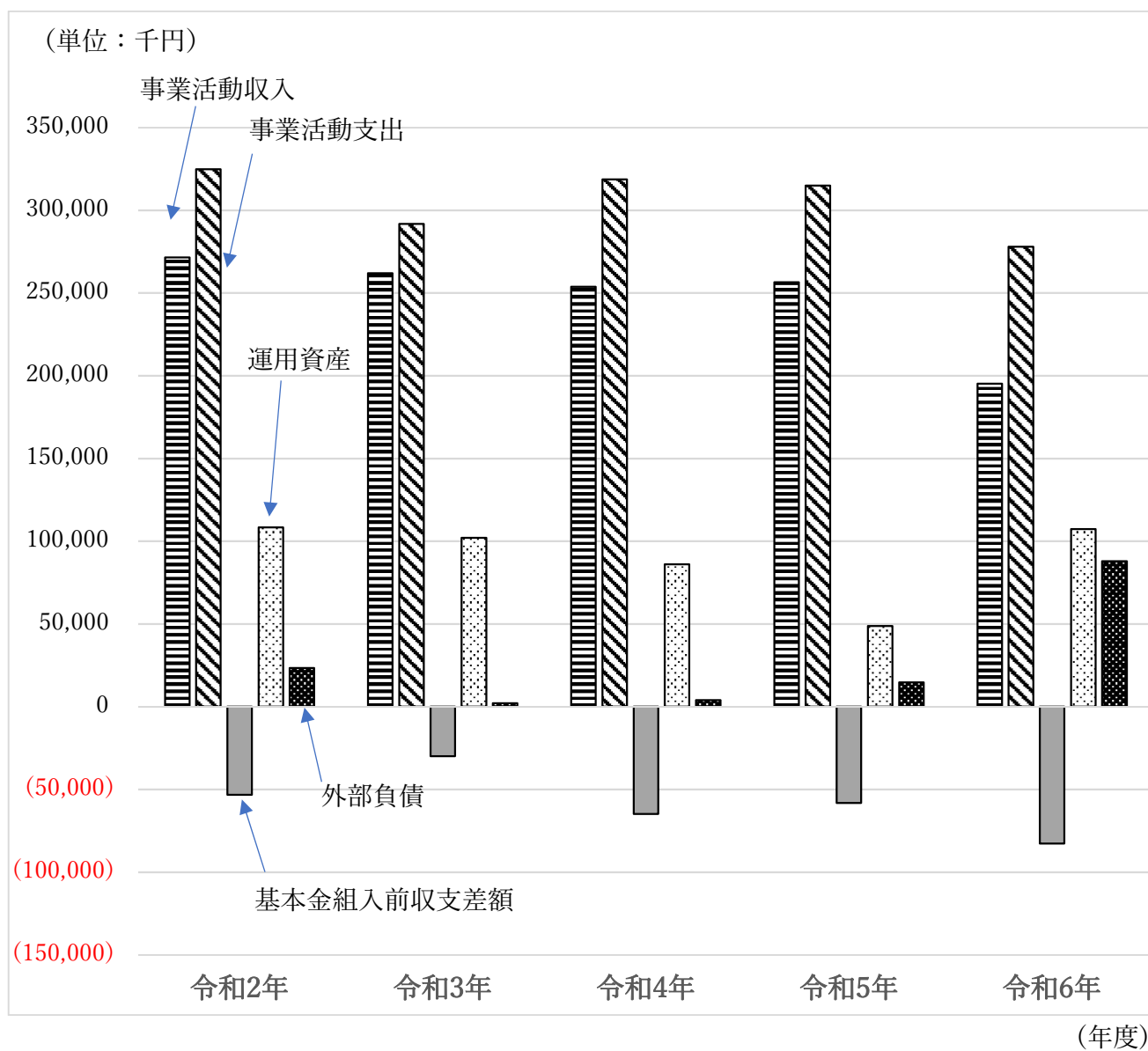
	令和 6 年度	令和 5 年度
収入総額 (= 支出総額)	368,625	398,547
うち翌年度繰越支払資金	106,553	32,171

#### 3.3 事業活動収支計算書の概要 (令和 6 年度)

(単位：千円)

		法 人	幼稚園	専門学校	全 体
教育活動 事業収支	収入	2,849	40,420	145,302	188,571
	支出	15,257	43,722	219,010	277,989
	差額	△ 12,408	△ 3,302	△ 73,708	△ 89,418
教育活動 事業外収支	収入	1	6	92	99
	支出	0	0	0	0
	差額	1	6	92	99
特別収支	収入	0	0	6,655	6,655
	支出	0	0	0	0
	差額	0	0	6,655	6,655
事業活動 収支	収入	2,850	40,426	152,049	195,325
	支出	15,257	43,722	219,010	277,989
	差額	△ 12,407	△ 3,297	△ 66,961	△ 82,664

### 3.4 5年間推移（令和2年度～令和6年度）



・令和2年度に運用資産のうち第3号基本金2,000万円を取り崩した。